

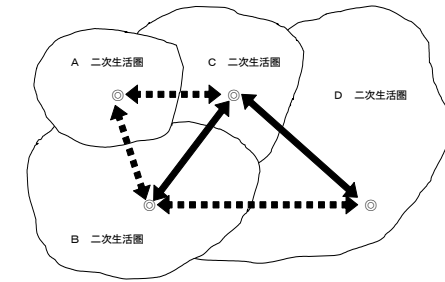
地域間交流・観光交流等内外交通の推進

～ 住民生活の利便性向上、地域経済の活性化等に資する地域間交流を支援する道路整備 ～

(1) 指標の動向

■ 住民生活の利便性の向上、地域経済の活性化等を図る

住民生活の利便性の向上、地域経済の活性化等のためには、地域間を結ぶネットワークの整備が重要であり、隣接する地域の中心の都市を結ぶルートである「地域間交流ルート」の重点的な整備が必要である。



※対象ルートは二次生活圏間の最短ルート
 ○ 二次生活圏中心都市
 → 道路改良済みルート
 - - - 道路未改良ルート

上図の場合、交流ルートの確保率 40%
 全 5 ルート中、2 ルート確保

【隣接生活圏を結ぶルート概念図】

(2) 達成度報告と業績計画

■ 新たに 4 つの地域間交流ルートを整備

平成 16 年度は、7 市に関連する 4 ルートの整備を完了したことにより、地域を結ぶルートの走行性、安定性を高め、住民生活や観光交通等の利便性の向上が図られた。

これにより全国では、「地域間交流ルート」が平成 15 年度実績値 73%から平成 16 年度目標値 74%まで向上が図られた。

■ 平成 17 年度も引き続き地域間交流等の促進を支援

【目標と実績】

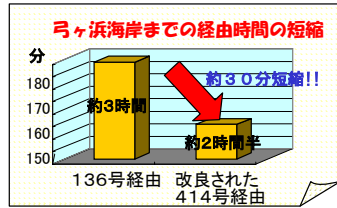
平成 17 年度は、新たに 5 ルートの「地域間交流ルート」について重点的に整備を促進し、75%に向上することを目標とする。

H14 実績	H15 実績	H16 目標	H16 実績	H17 目標	H19 目標
72%	73%	74%	74%	75%	77%

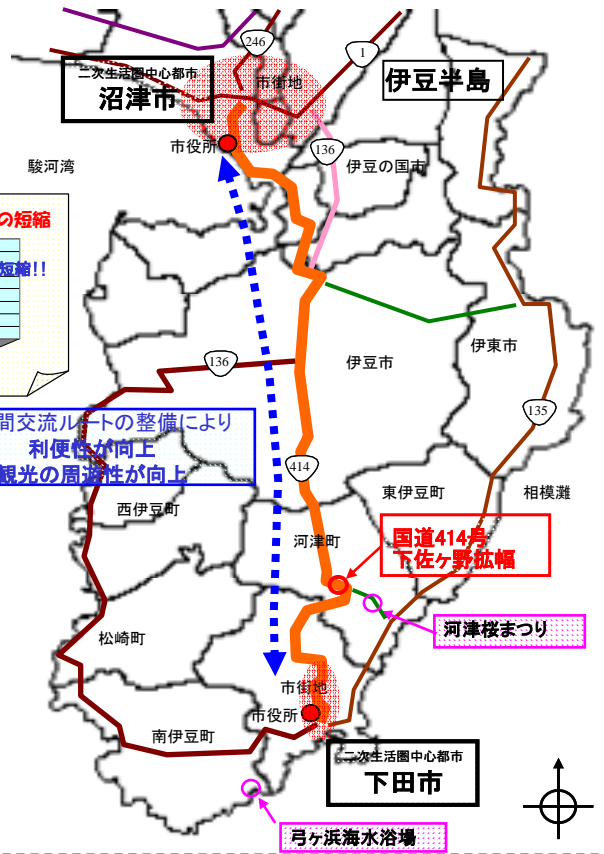
中部地方での整備事例(平成 16 年度)

● 整備効果

下佐ヶ野拡幅事業の整備により、地域住民の利便性が確保されるとともに、観光シーズンを中心に頻発していた大型観光バス同士のすれ違い困難による通過待ちが解消し、年間 100 万人を超える観光客で賑わう河津桜まつりへのアクセス向上や弓ヶ浜海水浴場への所要時間短縮が図られた。また、あわせて歩道が整備されたことにより、本区間を通学路として利用する小中学生や温泉客を含む歩行者の安全性が格段に改善された。



地域間交流ルートの整備により
 利便性が向上
 観光の周遊性が向上



大型車のすれ違い状況



大型車のすれ違い困難が解消!



小学生通学状況



通学の安全性が向上!



担当：道路局 国道・防災課